る観光開発計画があるが、実現は先きのことになる。

天草の上島と下島をつなぐ本渡瀬戸橋を渡ると、広々とした街路が、本渡市の中心街に通じている。

本渡市は、人口四万人、天草島の行政、文教、経済、交通の中心地である。市の中心商店街は、二年前の三十九年十月二十五日に大火にあい、その大部分を焼失した。しかし、架橋開通を前に、いまは見事に復興し、観光地らしい賑わいをみせている。

本渡港からは、本渡、島原西有家間のフェリーボートも計画され、十一月には就航の予定である。

市の中央に高くそびえる殉教公園は、もと本戸城のあった城山の趾である。園内は見事に園地化され、フェニックスや竜舌蘭などの亜熱帯樹が繁り、南国天草の公園にふさわしい情緒があふれている。

園内のもっとも高い場所に建っている真新しい建物が、八月一日に開館したばかりの天草キリシタン館である。鉄筋三階建、逆V字型のフォームがモダンな感じを与える。正面の壁面を区切る巨大な十字架は、遠くからでもよく見える。

このキリシタン館の中は展示室になっており、青銅のマリア像メダイ、鹿の骨で作ったマリア観音、ロザリオ、クルス、有名な経消しの壺、キリシタン禁制の高札など約一三〇点のキリシタン関係の遺物が、一堂に展示され、そのほか天草の郷土資料、民俗資料、生活文化財も集められている。

屋上に立つと、本渡市内が一望のもとに見渡され、その向うに、有明の海を閉んで、雲仙、天草上島、大矢野の島々が、てい立している姿を眺めることができる。

キリシタン館の手前、旧本丸跡には、昭和三十六年にライル神父の手によって建てられた、純白のキリスト平和像が立っている。また、聖像の向って右に侍するのは、パードレ・ルイス・ダルメイダのレェリーフ胸像である。

イエズス会の宣教師ルイス・ダルメイダは、永禄九年、天草にはじめてキリシタンの教えを伝えた人である。永禄九年といえば、織田信長が京都を制圧する二年前のことである。フランシスコ・デ・ザビエルが鹿児島に上陸し、キリシタンの教えを、はじめてわが国に伝えてから、すでに十七年たっていた。アルメイダは、その後現在の苓北、河浦方面を中心に熱心な布教を続け、それから十七年後の天正十一年、天草の信者たちにみとられて、現在の河浦町で息を引き取った。

聖像の左側には、荒川アダムの碑がある。

アダム荒川は、富岡に住んでいたキリシタン信徒である。慶長十八年十二月、徳川家康の禁教令が発せられるや、天草でも本格的なキリシタンの迫害がはじめられ、アダムは、その最初の殉教者となった。慶長十九年六月五日、アダムは、二箇月あまりの拷問を受けても遂に転宗せず、刑場の露と消えた。「アダムの遺骸は網に入れて、大きな石を結びつけられ、海中に投げこまれた」と、パジエスの日本切支丹宗門史に記されている。

キリスト平和像の前には、キリシタン墓地がしつらえられている。現在、五和町五領の周辺には千基以上のキリシタン墓碑群が散在しているが、その一部を聖像の丘に移したものである。自然石の表に、なにげなく刻まれた十字架が、当時の迫害の厳しさを物語っている。

本丸跡から谷ひとつへだてた出丸跡には、殉教戦千人塚が立てられている。かっては、殉教戦に倒れた無名の人々を供養するため、市内の各地に小さな地蔵塔が営まれていた。その一つは、いまも千人塚の背後にひっそりと立っている。千人塚は、これらの無名の殉教者の霊をとむらうため、昭和三十一年に、仏舎利塔の形を模してつくられたものである。

海底水族館や海水浴場も

本渡市の観光は、殉教公園と展望公園と海浜公園に大別できる。展望公園の中心は、街の南にそびえる十万山公園である。山頂まで、三、〇〇〇㍍の登山道路があり、車で登ることができる。ここからの天草島の絵のような津々浦々と、雲仙や阿蘇の雄大な風光が眺められる。

天草下島の南端牛深市に通ずる国道二六六号線は、この十万山の麓を迂回して、島の中央部へ向っており、もっとも重要な幹線産業道路である。しかし、観光を楽しむ人々は、車を北へ向け、五和、苓北を経て、天草下島の西海岸を南へ下るマリア海岸コースを取る方がいい。

本渡市内を北へ出はずれたところに、大矢崎、明瀬の海浜公園がある。ここには、茂木根の浦を見下す岬に、デラックスなホテルが建っている。三〇〇人収容できるという本格的な観光ホテルである。

このホテルに隣接して、天草海底自然水族館の完成が間近い。竣工は十一月中旬の予定である。海上一階、海底二階の三階建からなり、自然の海を締め切って海底トンネルを通し、直径八㍍、ガラス張りの海底ドームから、自然の魚、海藻の林、色とりどりのサンゴ礁、海中の水中ショーなどが眺められ、日本ではじめての珍らしい施設である。

茂木根の北に続く明瀬の浜辺は、海水浴場として開発される予定である。ここからさらに、海岸廻りの道を北へすすむと、まもなく五和町にはいる。ここにも、黒崎や亀島など、民間資本による海浜観光施設の計画がある。

車はやがて、鬼池港につく。この港は、有明海の湾口を占める早崎海峡をへだてて、島原半島の最南端口之津港と相対し、天草と雲仙を結ぶ海の最短コースである。海上わずか六、〇〇〇㍍あまり、二つの港を結んで、島原鉄道のフェリーボートが就航しており、二五分で渡ることができる。

編集室から＝次号は同じく地域開発シリーズとして阿蘇篇を予定しています。皆さんからのご意見、ご希望をお待ちしています。

歴史とロマンの島

鬼池から、海岸沿いの平坦な道を西へ、三〇分ほど走ると、苓北町富岡である。

富岡は古い町である。慶長八年、関が原合戦の三年後には、肥前唐津城主寺沢志摩守の手によって、ここに城が築かれた。また、島原の乱の後、天草が天領となってからは、幕府の代官所が置かれ、明治維新まで二七〇年間、天草一円を支配する行政の中心でもあった。志岐の町から、細長い陸繋橋の上に築かれた富岡の町にいると、いまでも、古い城下町の面影を随所に見ることができる。

富岡は、林芙美子「天草灘」や獅子文六「南の風」などで有名である。

町中を抜けると、右手に、曲崎に囲まれた波静かな巴湾が見えてくる。富岡城址は、巴湾を見下す小高い山の上にある。袋池の堤や石垣は、すでに城内の一部である。堤を渡り切ったところに、名代官鈴木重成の像が立っている。

鈴木重成は、寛永十八年初代の代官として天草に着任した。重成は島原の乱によって、まったく荒廃に帰してしまった天草の復興に力を注ぎ、民生の安定と思想の善導に腐心した。しかし、行政官としての彼の熱意は、遂に、当時四万二、〇〇〇石と定められていた天草全島の石高の半減を決意し、再三、幕府に願って、天草の年貢の過重なことを訴えたのである。だが、この前例のない訴えは、容易に聞き入れられなかった。そこで重成は、最後の手段として、石高半減の願いを遺書に書き残し、江戸の目邸において割腹したのである。その結果、幕府もようやく重成の願いを聞き入れ、天草の総石高は、二万一、〇〇〇石あまりに半減されることになった。

城址に登るには、ここから左へ、細い階段を歩かなければならない。階段の途中、右手に建っている建物は、九州大学臨海実験所の宿舎で、ここは富岡陣屋の跡と伝えられている。富岡城の本丸、二の丸址は、さらにその上にあり、展望台や休憩所が設けられている。

天草灘

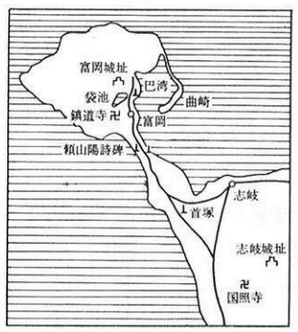
本丸址に立つと、眼下に、天の橋立に似た曲崎が、鏡のような巴湾に、影を映している。

さらに眼を、右に転ずると、天草灘と有明海、この二つのまったく違った海が、同時に見渡される。静かな有明海とは対象的に、天草灘は、遠く東支那海から押し寄せる波濤をまともに受けて、陸繋橋の上の町並を乗り越えるように、荒々しく波立っている。

城址を後に、小学校への道を登ると、右手の山を背にした高処に、鎮道寺がある。

この寺には、勝海舟の落書が残されている。安政四年の秋、勝海舟の指揮する幕府の練習船観光丸が、長崎から富岡に来航し、そのとき海舟は、本堂の柱に「日本海軍指揮官勝麟太郎」と落書した。翌年三月にも再び来航しているが、そのときには、「頼まれぬ世をば経れども契りあれば、ふたたびここに月を見るかな」と、一首の歌を書き残した。

鎮道寺前の路を下りると、天草灘は眼の前にある。頼山陽の詩碑は、天草灘を見渡す小高い場所に立っている。



<富岡周辺>

泊天草洋

雲か山か呉か越か
水天彷彿青一髪
万里船を泊す天草の洋
煙は蓬窓に横たわって
日漸く没す
瞥見す大魚の波間に跳るを
大白船に当って明月に似たり

頼山陽は、勝海舟にさき立つこと四十年前、文政元年八月に天草を訪れたといわれている。

富岡の町を志岐の方へ出はずれたところには、島原の乱のときの首塚がある。俗に千人塚と呼ばれ、原城で討死した殉教者の首が三つに分けられ、その一つが、ここに埋められたと伝えられている。その後鈴木重成によって、碑が立てられ、ねんごろな供養が営まれたが、その碑は、現在も残っている。

富岡から、天草下島の西海岸を南へ、温泉郷下田、陶石で有名な高浜の町、隠れキリシタンと天主堂の村、大江、崎津を経て、羊角湾に至るコースは、かって明治四十年の夏、北原白秋ら五人の若き詩人が歩いた道であり、キリシタン文学の故里でもある。

キリシタンの遺跡をたずねて、はるばる東京から天草にやってきた五人の詩人は、白秋のほか、新詩社を主宰する与謝野鉄幹、木下杢太郎、平野万里、および吉井勇であった。一行は、長崎から富岡に上陸し、富岡城址を見学した。それから、海岸の磯道を歩いて、大江に向かったのである。

温泉と陶石と海岸美

天草松島や巴湾に象徴される天草の女性的な風景は、ここに来ると一転して、東支那海の外洋に面した男性的な景観に変わる。車は断崖の上の道を走り、約二〇分で天草唯一の温泉郷下田につく。

下田温泉は、別名を白鷺温泉といい、